



## 鴨川市での弁護士生活

千葉県弁護士会 前野加奈

### 1. はじめに

私は現在、千葉県鴨川市にある鴨川ひまわり基金法律事務所の勤務弁護士として、所長である夫（金澤佳弘）と共に、弁護士業務に励んでおります。弁護士登録をして最初の2年半は、元々ひまわり基金法律事務所であった事務所に勤め、その次の勤務地が鴨川ですので、気が付けば弁護士登録以来一貫して弁護士過疎地域で働いています。

鴨川に来てから第二子にも恵まれ、現在6歳と2歳の男児と夫の4人で暮らしています。

### 2. 鴨川市、安房地域について

鴨川市の人口は3万2066人で、鴨川市を含む房総半島南端の安房地域（鴨川市、鋸南町、館山市、南房総市）全体の人口は12万0756人となっています（執筆時点）。

鴨川市といえば、シャチのいる「鴨川シーワールド」が有名です。そして鴨川市には、Newsweek「WORLD'S Best Hospitals 2022」日本版で第3位となった亀田総合病院もあります。

安房地域では、当事務所のほかに、館山市内で2名の弁護士が活動されています。鴨川市には当事務所以外に法律事務所はなく、また、鴨川市に隣接する南房総市や勝浦市にも弁護士がおりませんので、当事務所には鴨川市や近隣自治体にお住まいの方々が多く相談にいらっしゃいます。



鴨川シーワールドのシャチショー

### 3. 鴨川市での弁護士活動

#### (1) 法律相談の内容から感じること

事務所に寄せられる相談は多岐に渡り、債務整理や相続・離婚等の家事事件、不動産問題、交通事故など、様々です。その中で、鴨川に来て最も勉強しなければならないと感じた分野は、農地に関する問題でした。

鴨川は、日本の棚田百選に選ばれている大山千枚田があるなど、農地がたくさんあります。そのため、農地に関する相談は多く、これまで、農地の処分の相談、土地改良区による賦課徴収についての相談、あぜ道の修補に関する相談などがありました。相談に来られる方は、「鴨川で弁護士をやっている以上、農地の問題について当然知っているだろう」という認識でいらっしゃいますが、私は恥ずかしながら、これまで農地に関する知識は皆無に等しい状態でした。ですので、相談者から「赤道」や「青地」といった言葉が出るたび、冷や汗をかいていました。相談者に知らない言葉を教えていただいたり、相談の度に関連法規や裁判例を調査したりしながら、日々学ばせていただいています。

農地の相談以外では、いわゆる空き家問題に遭遇することが多くあります。安房地域も過疎化が進んでおりますので、相談者の近隣に管理不十分な空き家があるということは本当に多くあります。相続財産管理人や不在者財産管理人の選任申立を勧めるなど、地域全体のことも考えたアドバイスをし



「日本の棚田百選」に認定されている大山千枚田

ていく必要があるのだらうと思います。

## (2) 仕事と子育ての両立

鴨川市は医療も充実し、大手スーパーもあり、とても快適に生活ができています。一方で、仕事と子育ての両立には苦勞しているというのが正直なところです。

事務所には多く相談が寄せられますので、どうしても夫婦ともに執務時間が長くなります。私が仕事を終えて保育園に向かうと、最後のお迎えだったということも少なくありません。

また、子どもの体調の急変に備え、私と夫の法律相談や期日の予定などが重複しないように工夫していますが、どうしても都合がつかないこともあります。つい先日は、私は裁判所での期日で、夫は事務所で別事件の電話会議の予定でしたが、その日に限り長男の体調が悪く、保育園を休まざるを得ませんでした。やむなく、夫がぐったりした長男を事務所に連れてきて、いつ吐いてもよいようにバケツを持たせて事務所で待機させたうえで電話会議に臨んだということがありました。

このように、親の仕事のために子供たちに負担をかけてしまっている面はあると思います。埋め合わせになっているかはわかりませんが、週末はできるだけ子供たちと一緒に過ごすことを心がけています。

## 4. 弁護士過疎地域における女性弁護士へのニーズについて

地域の方々から様々な相談が寄せられていることはすでに述べましたが、時折、「女性の弁護士がいると聞いたんですが…」等と、相談の予約の段階から女性弁護士を希望される方がいらっしゃいます。典型的なのは男性配偶者からのDVやモラハラが原因の離婚のご相談ですが、男性のパートナーから経済的に搾取されている方の債務整理のご相談もあります。

私が担当した女性の依頼者で、特に印象に残って

いる方がいます。その方は、私も同行した離婚調停での期日中に、パニック症状が発現し、過呼吸になってしまいました。私は調停室でその方の背中をさすり、手を握りながらお声がけをし、ようやく落ち着かれました。女性弁護士だからこそ取りえた対処であったのではないかと思います。

また、ある女性の依頼者からは、事件の終結時にこうおっしゃっていただいたことがあります。「先生に相談するまでは生きるのが辛くて仕方なかった。でも、先生に依頼して、生きる希望が持てました」。

どの地域であっても、深刻な理由で女性の弁護士にこそ相談したいと考える方はいらっしゃると思います。地域の方々にとって、男性弁護士にも女性弁護士にも相談できる環境が必要であると改めて感じています。弁護士過疎地域に男女問わず弁護士が増え、より多くの方が自分の権利を実現できるようになってほしい、そのために私も微力ながら貢献したいと強く思います。

## 5. 最後に

夫ともに赴任してくるまでは縁もゆかりもなかった鴨川ですが、地域の方々や事務所の事務員さんにも恵まれ、忙しいながらも楽しく生活ができています。

ある依頼者は私の次男出産のお祝いに家族4人分の鯛を焼いてきてくださいました。また別の依頼者は「産後は色々大変でしょう」と相談の度にお惣菜を作ってきてくださいました。私に急な法律相談が入ったときに、事務員さんが首の座らない次男をあやしなから事務をしてくださったこともあります。2019年に安房地域を襲った台風15号の時には、自宅が4日間にわたり停電しましたが、近所の方が子どもを心配して声をかけてくださり、本当に心強かったです。

弁護士活動だけでなく、家族で住んだからこそ感じる鴨川の温かさ。このような環境に感謝しながら、その感謝を少しでも地域の方々にお返しできるよう、

これからも弁護士業務を頑張っていきたいと思っています。



鴨川市街と海 多くのサーファーが訪れます



海の幸を堪能しに訪れる観光客も多いです